

## 国際動向特集①

### 持続可能な開発目標に関する公開作業部会と主要グループ及びその他のステークホルダー間の期間会合 (Intersessional Meeting between Major Group and Other Stakeholders and the OWG on SDGs)

2013年11月22日、米国・ニューヨーク、国際連合本部第3会議室

SDGs メールマガジン Vol.5 (2013年12月5日発行)

一般社団法人 環境パートナーシップ会議

今年の3月から始まった持続可能な開発目標に関する公開作業部会 (Open Working Group on Sustainable Development Goals, OWG on SDGs) は、6月までに4回の会合を実施し、夏休みをはさんで11月から来年の2月までに残りの4回の会合が実施されます。後半の4回のOWG会合を目前に、NGOを含む主要グループ<sup>1</sup> (Major Group) やその他のステークホルダーとの意見交換を目的に、OWGの共同議長との期間会合 (Intersessional Meeting) が11月22日に米国・ニューヨークの国際連合本部にて開催されました。会場には200人以上の関係者らが参加し、とても盛り上がりました。

会議は午前と午後の部で分かれ、午前の部では1) 持続可能な開発の全ての次元を網羅する権利に基づいたSDGs (Right-based SDGs that encompasses all dimensions of Sustainable Development)、2) どうやって持続可能な開発目標は不平等や貧困をなくせるか (How the Sustainable Development Goals can eliminate inequalities and poverty)、午後の部では3) SDGs履行の核としてのグッド・ガバナンスと可能とする環境や手段 (Good governance, enabling environment and institutions at the core of implementing SDGs)、4) (気候変動や自然資源の管理を含む) 地球システムの境界内での人間開発を促進させるSDGsのデザイン (Designing SDGs that foster human development within planetary boundaries (including climate change and natural resources management)) をテーマとして議論が行われました。また、午前と午後の部の間には国連総会議長事務局より、ポスト2015開発アジェンダに関する国連総会議長の取り組みに関する説明がありました。

それぞれの議題で構成された各セッションでは、まず4～5人の登壇者より話題提供があり、その後会場内から質問やコメントを受けつつ議論を進めていく形で行われました。第1セッション「権利に基づいたSDGs」については、既存のミレニアム開発目標 (MDGs) の教訓から、「人権に配慮して「半減」などよりはゼロ目標や普遍的な目標が適切である」とした上で、人権こそが持続可能な開発における3つの次元の基礎となると強調しました。これらの実現は、「例えば (if)」の話でなく、「どうやって (how)」の問題であることも



冒頭で挨拶するクサバ・コロシ共同議長  
(ハンガリー国際連合大使)

<sup>1</sup> 主要グループ (Major Group) とは、1992年にブラジルのリオデジャネイロで行われた国連環境開発会議 (UNCED、通称“地球サミット”) で採択された「アジェンダ21」で定義された枠組みで、市民社会を構成する主要なグループとして1) 企業・産業、2) 子ども・若者、3) 農民、4) 先住民族、5) 自治体、6) 非政府機構、7) 科学・技術者、8) 女性、9) 労働者・労働組合の9つのグループを定義しています。

言及されました。第2セッション「不平等と貧困」では、「不平等と差別を無くさない限り、貧困撲滅やSDGsの達成はできない」と前提した上で、労働市場での適正な賃金の支払いなど不平等を無くし貧困撲滅に寄与できる関連政策の提案がありました。第3セッション「ガバナンス」では、参加や情報公開、説明責任（アカウンタビリティ）が主題となり、不平等や貧困は差別や参加プロセスの欠如から生まれるとの指摘がありました。第4セッション「地球システムの境界（Planetary Boundary）」では、「例えば地球上の全ての人間が各自の権利を達成できるほどの十分な資源が無ければどうするか」など逆発送を促す問いが多くあげられ、地球システム全体の許容範囲内で開発や発展を実現するための姿勢について議論されました。



会場からの発言も多く、時間調整が大変

また、国連総会議長事務局のブリーフィングでは、第68回国連総会議長であるジョン・アッシュ議長のポスト2015開発アジェンダに対する高い関心やこれまでの取り組みが紹介されたあと、今後SDGsやポスト2015開発アジェンダに関する議論をより実りあるものとするため、合計6つの特別イベントを実施することが発表されました。具体的には、1) 女性、若者及び市民社会の役割、2) 人権とポスト2015開発アジェンダの関連性、3) 南南協力・三角協力やICT（情報通信技術）を活用した開発を議題とするハイレベル会合をそれぞれ実施し、また1) パートナシップの役割、2) 平和で持続可能な社会、3) 水と衛生、持続可能なエネルギーに関するテーマ別イベントがそれぞれ実施されます。各イベントについてまだ詳細は決まっておらず、今後具体的な情報については持続可能な開発知識プラットフォーム(<http://sustainabledevelopment.un.org/>)にて発表されます。

今回の議論についてSDGsの共同議場は大変満足したと評価し、また来年の1月にこのような期間会合をもう一度実施すると公表しました。詳細については今後発表される予定でまだ明らかにされていませんが、今回の参加経験から、NGOをはじめ主要グループやステークホルダーからSDGsに関する議論に直接かつ効率よく、自由に意見を届ける機会であることがわかりましたので、関心のある方はぜひとも積極的にこの機会を活用していただけたらと思います。参加のプロセスについては、詳細が発表され次第また次号のメールマガジンを通じてご案内いたします。

-----